

令和 4 年度 事業者防災訓練 課題対応資料

1. 令和 4 年度の総合訓練において確認された下記分類の課題について、それぞれに対する原因分析、対策案を表-1 に示す。

1) 外部機関を含む情報共有 (ERC プラント班との通報連絡)

(1) 情報集約及び情報発信

(2) 書架資料

(3) 発信内容の正確性

また、令和 4 年度の総合訓練において確認された課題のうち、内部レベルアップ事項について、下記の 2 つに分類し、原因分析、対策案を表-2 に示す。

1) 外部機関を含む情報共有 (ERC プラント班との通報連絡)

(1) 書画装置

2) その他

(1) 訓練の実施方法 (訓練時に使用する通報先一覧の作成)

2. 情報フローについての自己評価

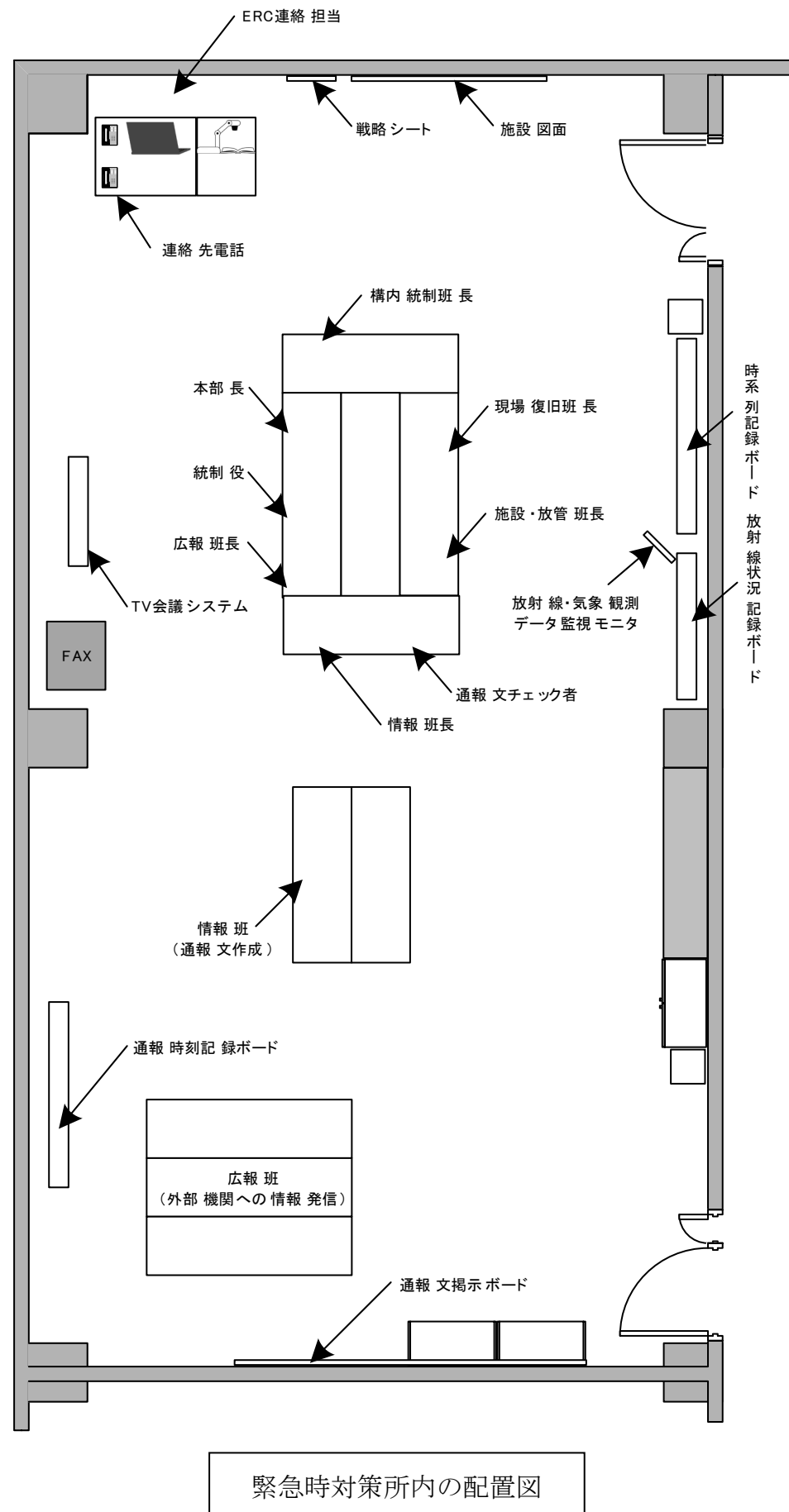
情報フロー図 (別図 1 参照) 中の ERC プラント班へ情報を発信する箇所について、ERC 対応班は事故対策本部と同じ情報を共有していることから、ERC 対応班が主体的に本部内から情報を収集し、ERC プラント班に情報を整理して発信するフローとし、その習熟を図ってきた。しかしながら、今回の訓練想定のように複数事象の同時または連続発生の場合等にあつては、ERC 対応班内で情報を収集し、正確な情報を発信することが困難であることが判明したことから、別図 2 (案) のとおり情報フローの見直しを行い、ERC プラント班との情報共有の改善を図ることとする。

表-1 令和4年度訓練課題

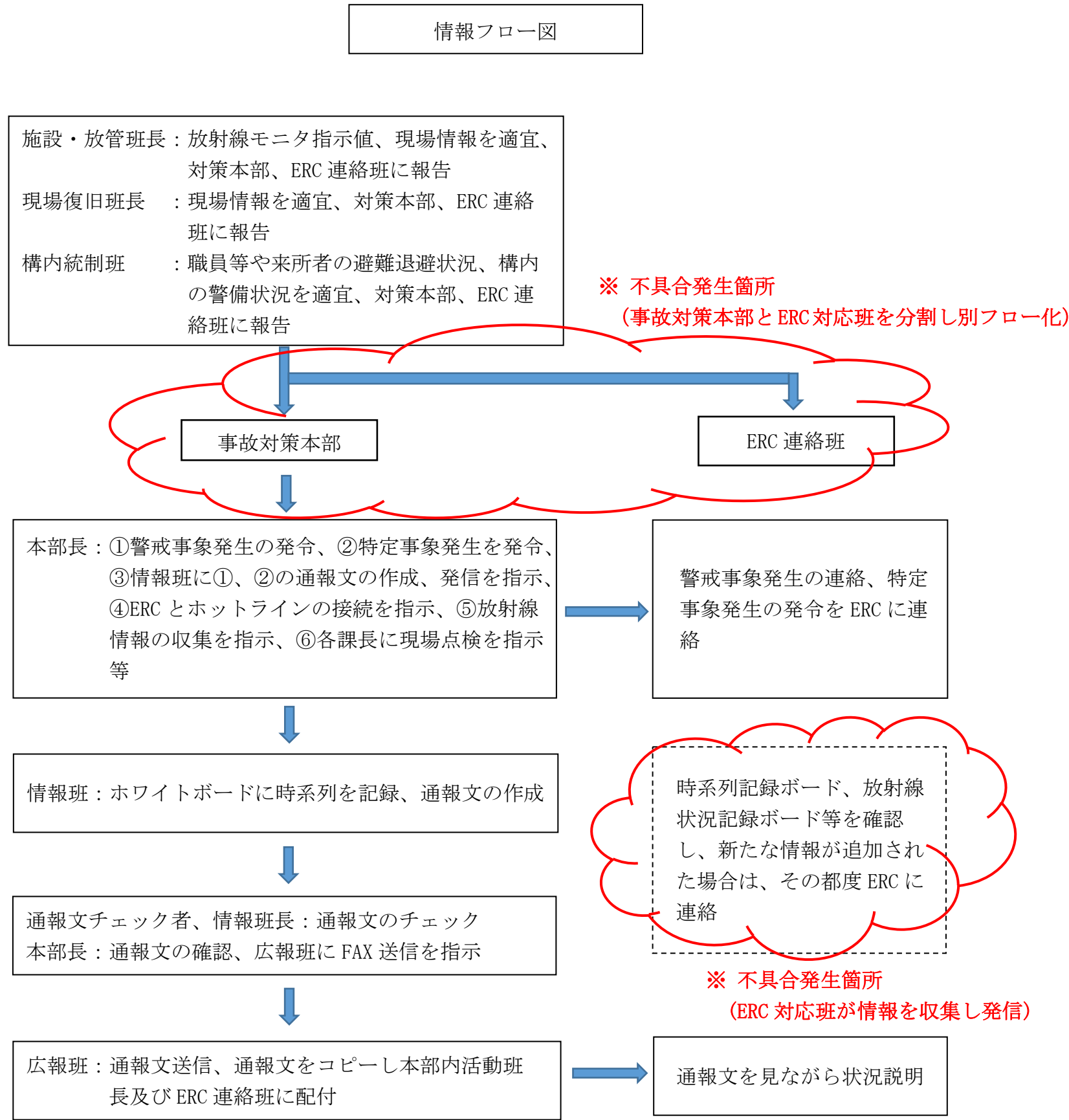
分類	項目	① あるべき姿、②問題点／課題、③原因、④対策
1) 外部機関 を含む情報共有 (ERCプラント班との通報連絡)	(1) 情報集約及び情報発信	<p>① あるべき姿； 緊急性、重要性等の優先順位をつけ、報告すべき情報を体系的に分かりやすく説明できる。</p> <p>② 問題点／課題； 発生事象毎や本部で確認された事象毎にそれぞれ発話してしまったことにより、優先順位の低い情報と高い情報が混在してしまい、断片的な説明になってしまうことがあった。</p> <p>③ 原因； 第1部訓練では、複数事象の同時または連続発生を想定したが、そのような状況下での情報の集約及び発話に不慣れな点があった。また、現行のERCプラント班への情報フロー及びERC対応班の役割分担（発話者へのフォロー不足）に不備があった。</p> <p>④ 対策； ERCプラント班への情報フロー及びERC対応班の役割分担の見直しを行い、事故対策本部内にERCプラント班に伝達する情報を統制するERC連絡班の情報収集整理役1名を配置し、その者が整理した情報を発話者が伝達することとする（情報集約整理役と発話者の役割を明確に区別）。</p>
	(2) 書架資料	<p>① あるべき姿； 書架資料等をもとに簡潔に分かりやすく説明できる。</p> <p>② 問題点／課題； 書架資料等を用いずに口答説明を先行してしまったことで、説明が長くわかりづらくなってしまうことがあった。</p> <p>③ 原因； 説明の際にどの書架資料を用いればよいかの検索がしづらく、また容易に取り出すことができなかった</p> <p>④ 対策； 速やかに該当する書架資料を検索し、即座に使用できるように書架資料の見直し（目次や名称を分かりやすいものに変更するとともに参考情報を追記する等）を図る。</p>
	(3) 発信内容の正確性	<p>① あるべき姿； 発生事象、影響の度合い、今後想定される事象等を正確に説明することができる。</p> <p>② 問題点／課題； 一部不確かな内容や、情報の整理が不十分な状態で発話してしまった。</p> <p>③ 原因； ホワイトボードに情報が追記される都度、その情報を発信していたが、記載された情報に誤りがあり、修正されることがあった。</p> <p>④ 対策； ERCプラント班に発話する情報は、放射線モニタの指示値等確実な情報を除き、本部の確認が得られた情報のみを発信することとする。</p>

表-2 令和4年度訓練課題（内部レベルアップ事項）

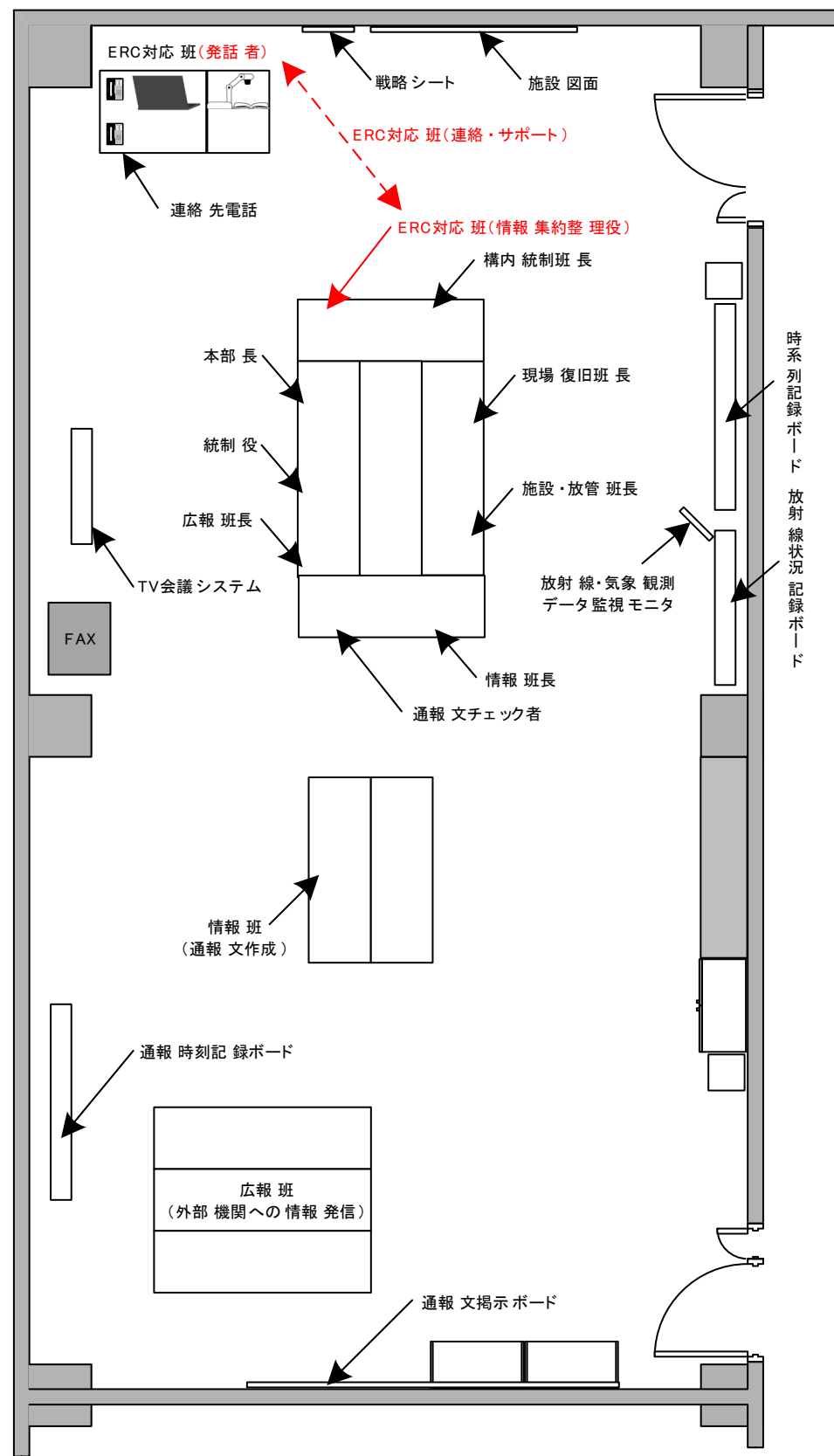
分類	項目	① あるべき姿、②問題点／課題、③原因、④対策
1) 外部機関を含む情報共有（ERCプラント班との通報連絡）	(1) 書画装置	<p>① あるべき姿 書画装置を用いる際は、相手方の資料の確認状況を考慮し、適切なタイミングで資料を切替えて説明することができる。</p> <p>② 問題点／課題； 書画装置での情報共有時に ERC プラント班の確認を得ずに切り替えてしまうことがあった。</p> <p>③ 原因； 試行した書画装置の使用方法に不慣れな点があった。</p> <p>④ 対策； 他施設の訓練視察等により、書架装置の使用方法の見直しを行い、要素訓練等で習熟を図る。</p>
2) その他	(1) 訓練の実施方法（訓練時に使用する通報先一覧の作成）	<p>① あるべき姿； 通報先一覧の電話・FAX 番号が正確である。</p> <p>② 問題点／課題； 通報先の電話番号に間違いがあり、通報に遅れが生じた。</p> <p>③ 原因； 今回の訓練において、模擬の通報先があったことから、模擬の通報先の電話番号と実災害発生時と同様に通報する電話番号の一覧を作成したが、通報先の電話番号に誤記があった。</p> <p>④ 対策； 訓練時に模擬とする通報先がある場合は、模擬通報先のみ限定した通報先の一覧を作成する。また、通報先一覧を作成した際はダブルチェック等による確認を徹底する。</p>



緊急時対策所内の配置図



別図1 緊急時対策所内の情報フロー図 (現行)



緊急時対策所内の配置図

情報フロー図

施設・放管班長：放射線モニタ指示値、現場情報を適宜、対策本部に報告
 現場復旧班長：現場情報を適宜、対策本部報告
 構内統制班：職員等や来所者の避難退避状況、構内の警備状況を適宜、対策本部に報告

事故対策本部

※ 発信情報の一元化

本部長：①警戒事象発生が発令、②特定事象発生が発令、③情報班に①、②の通報文の作成、発信を指示、④ERCプラント班とのホットラインの接続及び発信情報の集約整理を指示、⑤放射線情報の収集を指示、⑥各課に現場点検を指示等

情報班：ホワイトボードに時系列を記録、通報文の作成

通報文チェック者、情報班長：通報文のチェック
 本部長：通報文の確認、広報班にFAX送信を指示

広報班：通報文送信、通報文をコピーし本部内活動班長及びERC連絡班(情報集約整理役)に配付

ERC連絡班(発話者)

放射線モニタの指示値等確実な情報は、放射線状況記録ボードを適宜確認し、新たな情報が追加された場合は、その都度ERCに連絡

※ 緊急時対策所の配置や情報フローは要素訓練で有効性を検証したうえで決定する。

別図2 緊急時対策所内の情報フロー図(変更案)